

平成 30 年度 学校自己評価システムシート

単位制による通信制の課程

目指す学校像	生徒一人ひとりが、自分のライフスタイルを大切に、夢の実現に向けて自分の好きな学習に全力で取り組むことのできる学習環境を地域社会と連携しながら構築する。
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎基本を重視した学習指導と生活指導を効果的に展開し、生徒の学習意欲の向上を図る。 2 進学希望のある生徒の募集を積極的に行い、単位制による通信制課程の特色や利点について、広く理解促進に努める。 3 生徒一人ひとりの能力・興味関心・適性に応じた進路実現を図る。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (3 月 23 日 現 在)		
年 度 目 標					評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標			
1	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断・歯科検診を毎年しっかり受診させる。 資格や検定の受検を奨励するだけでなく、ある程度学校内での決まりごととして指導したい。 学習センター付近の巡回指導は、さらに定期的に行う必要がある。 生徒が主体的に参加できる企画や行事を増やし、役割と課題を与える。 タブレットの導入等を通じて、ICT教育を推進させる。 スクーリングやレポート添削、テストの実施に関して、ガイドラインに基づいた運営を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着とともに、生徒の登校日数を増やす。 資格試験や検定の受験者数を増やす。 問題行動予防に対する校内指導体制の確立。 生徒が主体的に参加できる仕組み作り。 生徒がタブレットで学習できるコンテンツの拡充。 学習指導・評価等の適正な実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業訪問等の実施と卒業生徒の現状把握。 アクティブイングリッシュと国語演習は授業への参加をなるべく義務付ける。 授業や各種講座の実施時期について、効率的な教育活動計画。 校外、校内の巡回指導による問題行動の予防。 生徒を励まし、注意を促す声かけ・挨拶の励行。 学校行事、委員会活動等の充実と工夫、さらに積極的な参加への呼びかけの工夫。 レポート指導、スクーリング、テスト、健康診断等の適切な実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職した卒業生の追跡調査。 生徒にどのように自信をつけさせ、動機付けをすればよいか。 個人面談や保護者相談の内容や回数は充実しているか。 生徒の登校率や、行事への参加状況の把握 全教職員による声かけ、挨拶運動を継続して行っているか。 不登校生徒に対する家庭との連携は十分に行われているか。 生徒情報をシステムに登録し、情報の共有を図っているか。 免許保持者による学習指導。 健康診断が各地の医療機関で適切に行なわれているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の卒業後の就職先企業に対するケアが不足。 国語や英語を中心に基礎学力の定着のための授業の参加人数が不十分。 登校しない生徒の問題行動防止策に関しては、保護者との連携を密にする。 生徒同士の活動を促進するためのサークル組織や委員会を立ち上げ、ボランティア活動や募金活動を始めた。 タブレットにより、基礎英会話や小論文などが学習できるようになった。 学習指導は、適正に行なわれているが、健康診断の実施率を増やしたい。 生徒が学習する時と、交流する時のメリハリができるようになった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 登校しない生徒に対するケアや家庭との連携をさらに強化したい。 各学習センターの独自色を強めながらも、全体で生徒の学習支援体制を整備する。 学習への動機付けを行うために、生徒の興味や関心のある講座を増やして、進学への道筋をつけさせる。 全教員が全員の生徒に対して声かけをする習慣をつける。また、保護者に対してできるだけ生徒の様子を電話で伝える。 メディア視聴については、計画的・継続的な指導を心掛ける。 タブレットのコンテンツをさらに増やして、ICT教育を推進させる。
2	<ul style="list-style-type: none"> 進学実績を出せる生徒の募集方法をさらに工夫する。 学校ホームページのスマホ対策。 資料請求数をいかに増やすか。 特に進学校としての実績づくりと新たな教育を打ち出すためのコース戦略。 見学者の入学率をどのようにアップさせるかが課題。 保護者への電話連絡をさらに密にすることが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 県内、県外高等学校、中学校に対する進学実績の情報提供。 学校見学会、個別相談会への動員確保の工夫。 インターネットでの情報発信(学校HP等)。 大学進学実績や新コースの創設。 保護者への電話がけ 	<ul style="list-style-type: none"> 高校、中学訪問を中心に指定校推薦大学の情報提供を拡大。 本校生徒の具体的な進学状況を伝える資料の作成配布。 学習カリキュラムの可視化による生徒募集を円滑に進める。 学校見学会と個別入学相談だけでなく、体験学習会も企画。 学校ホームページの改訂と定期的な更新。 全教職員が入試、生徒募集業務に意欲的に取り組み、学校訪問・見学者対応・HP更新など全員で進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校、中学校訪問を学校の紹介を一方的に行うやり方ではなく、基本的な人間関係を築きながら、相手の要望を聞きだす。 資料請求、学校見学参加者が増加したか。 本校ホームページへのアクセス数が増加したか。 入試業務をミスなく円滑に行う。 家庭への連絡を増やして、覚書への入力が増えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 県内・県外高等学校、中学校への学校訪問時に、在校生や卒業生の現状報告をし、信頼関係を築けた。 資料請求者、学校見学会や個別相談会参加者の入学達成率を高める必要がある。 学校ホームページは、ネット検索やスマホ対策が必要であり、リニューアルの準備を進めた。 入試業務は、各部署の連携で円滑に実施されている。 登校した生徒への声かけは増えたが、不登校の家庭への連絡は、まだ足りない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全日制の学校と比べられるような学校づくりをするため、語学学習を強化する。 最近の資料請求、見学者、入学者のデータを再度分析し、各地区の生徒募集方針を打ち出す。 他校との差別化のため、高卒資格プラスαの部分前面に押し出す。 学校ホームページとパンフレットをリニューアルし、資料請求につなげる。 地域の教育機関との連携を強化し、地域に受け入れられる学校づくりを目指す。
3	<ul style="list-style-type: none"> 進学校として、国公立大学、私立大学への進学実績確保が急務。また卒業生の進学率7割が目標。 指定校推薦枠の拡充。 進学コースや基礎基本徹底コースの生徒を増員させる方策。 TOEICなどの英語系資格を取得させ、大学進学実績を増やす。 2020年度入試改革に向けて教員全体の意識改革と、具体的な授業改善を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来への展望を明確に持ち、自己実現に向けて着実に努力する生徒を育成する。 個に応じた進路指導と保護者との連携。 難関大学や最難関大学への合格実数を増やす。 生徒の主体性を重視して課題解決型の教育を導入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格や検定受験を奨励し、将来の進路へつなげる。 進路説明会や体験学習会の内容を充実させる。 進路室や掲示板、広報誌等の活用と個別進路指導の充実。 進学コースで難関大学進学指導を充実させる。 新テストに対応するための思考力・判断力を生み出すレポート課題の作成、及びスクーリング方法を各教科でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学への受験者、合格者が増えたか。 9月卒業生、3月卒業生の進路実績が向上したか。 全国の学習拠点での進学実績が伸びているか。 将来の進学や就職に有利な英語コミュニケーション能力を育成する。 難関大学志望者を増やす。 生徒の興味・関心と社会的課題を結びつけ、解決に向けての学びを自分で設計し、実行してきたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 難関国立大学(京都大)の合格者、筑波大への複数合格など、実績も向上した。 英語コミュニケーション能力を伸ばすための工夫をもっと増やして、講座への参加者数を増やしたい。 全国的には、大学への進学者が増えた。 TOEICだけでなく、GTECなどの英語系資格を学内に導入させてきた。 生徒の基礎学力を伸ばすことは実施できたが、更なる課題解決力は不十分。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各センターにおいて、キャリア教育の企画・実践を進めていく。 語学(英語・日本語)のコミュニケーション能力を楽しく身につかせ、将来に備えさせる。 生徒の興味や関心のある講座から、進学につなげる講座まで、生徒の実状に合わせた学習で進路につなげる。 進学先へのミスマッチを防ぐために、早めの適性検査を実施する。 新テストに向けての研究と実践を繰り返して継続させることが重要。